第９回陸前高田市津波避難計画策定アドバイザリー会議
議事要旨

○　開催日時　令和８年５月２７日（水）午後２時から午後５時２５分まで
○　開催場所　陸前高田市消防防災センター２階　防災研修室
○　出席委員　牛山素行委員長、加藤孝明委員、関谷直也委員
　　中村吉雄委員、福留邦洋委員
○　配布資料
　資料１　　三陸沖の地震による津波警報等及び北海道・三陸沖後発地震注意情報への当市の対応について

○　経過概要

１　事務局より、次第の２報告「三陸沖の地震による津波警報等及び北海道・三陸沖後発地震注意情報への当市の対応について」説明を行った。

２　次第の３議事⑴第１次経過報告書における課題について、現状等を事務局から説明し、委員による意見交換が行われた。各シミュレーションについて、加藤委員から説明が行われ、委員による意見交換が行われた。

主な意見は、次のとおりである。

⑴　説明内容概要

ア　第１次経過報告書における課題について
イ　高田地区追加シミュレーションについて
ウ　漁村集落における住民アンケートに係るシミュレーションについて
エ　津波避難計画策定における今後の進め方について

⑵　委員による主な意見

ア　第１次経過報告書における課題について

・　インフラ面において、信号機の停電時挙動が避難のボトルネックになっている。信号が通常稼働する場合の遅延や、橋の通行不可により車両が逆流した場合を想定したシミュレーションを実施し、関係機関へ協議をする必要がある。

・　防潮堤周辺の整備については、松林内の避難路確保を進めるため、土地の所有者である国や市、管理を担う県との間で、保安林解除の手続きを整理し、避難路箇所を市の土地にすることを検討する。

・　本丸公園への避難については、急な階段を上ることが困難な避難者に対し、市役所脇の駅前道路もルートとして考慮する。

イ　高田地区追加シミュレーションについて

・　信号機が通常稼働する場合のシミュレーションを行い、協議をする。

ウ　漁村集落における住民アンケートに係るシミュレーションについて

・　地震発生から３分での避難開始という前提は就寝時などの実態に対して早すぎるため、内閣府や県の被害想定に準拠した設定時間（5 分～12 分等）を取り入れて、シミュレーションを再度行う。

・　現在は全員がルール通りに避難する理想的な条件となっているため、実際には一人暮らしの高齢者を近隣住民が車で救助に向かう際の一時停車や逆走、電柱等による有効幅員の減少といった現実的な「攪乱要因」をシミュレーションに追加し、地域で助け合う際の具体的な移動ルールやボトルネックを浮き彫りにすることが重要である。

エ　津波避難計画策定における今後の進め方について

・　再度シミュレーションを行い、どの程度の影響が出るか協議を行う。